

## ダチョウで実施した鳥インフルエンザ対策

○森泉さやか  
(野毛山動物園)

横浜市では高病原性鳥インフルエンザ(以下:HPAI)への防疫対策として、2006年度より発生地から市立動物園までの直線距離に応じて段階的に防疫対応指針を策定している。野鳥との接触が容易な屋外展示場で飼育している野毛山動物園のダチョウで実施した防疫対応について報告する。

防疫対応指針では、平時は衛生管理を徹底し、国内発生またはHPAI ウイルスを媒介する水鳥の渡りが増える11月～翌年3月の間は入舎前後の手指消毒、長靴の履き替え、管理通路の消毒を行うなど追加措置が定められている。防疫対応指針が改訂された2015年度からは、当園の半径50km圏内で発生すると、野鳥との接触が容易な鳥類の展示場は展示を中止し終日屋内収容となった。その後2022年度に再度防疫対応指針が改訂され、国内発生した場合、ダチョウは野鳥との接触を防ぐために防鳥ネットの設置をした上で屋外展示可能とし、横浜市内で発生した場合に屋内収容となった。

ダチョウ展示場の柵は立ち上がったダチョウより低いため、支柱を立てて防鳥ネットを設置し、ネットは家畜伝染病予防法に準拠し網目が2cm以下のものを使用した。また、来園者が防鳥ネットに触れないようにコーンバーを設置し緩衝地帯を設けた。

2022年度は、12月30日に半径50km圏内で発生が確認され一時的に屋内収容し、防鳥ネットの設置が完了した翌年1月19日から防疫対応レベルが引き下げられた5月13日まで防鳥ネットを使用した。屋内収容は19日間、防鳥ネットを使用期間は114日間であった。2023年度は、10月4日に国内で発生が確認され、防鳥ネットの設置が完了した10月16日から翌年6月4日までの231日間防鳥ネットを使用した。

当園のダチョウは2022年度に防疫対応指針が改訂され、衛生管理の徹底及び防鳥ネットを使用することで屋外展示が可能となり、現在までHPAIへの感染は確認されていない。